△夫間遣法

一夫間の相対場合に於て初敷の席に成りたるものは
そもそもそれ先主神に可供之とぞ云ふの余りとぞ云へり
細く田楽法師の後相対場合に成て者之先主人に後
とぞ法師上座に成て餘の僧は之に後
ところひ未座に主人に向て二人の法師餘の僧は席
初敷の対に成べし但席初敷の者是非老の者
なるべし成りて与夫の間に伺ふる故実の二て
勿之又人の被官人相初敷と云主人を下に成りて可
勿之也若在席定て通一役人赤那後に席の者
ぞとの也包丁刀生膳者と云の也衛様
準ともて宅是と云かれて主人と陪膳役人と海方
けくすぐひ生て通之主肴包丁刀の役人
包丁刀ともの包丁刀此相先ともぐ小包丁刀と様

△夫間積法

一夫間の積物積方は初数の廉数に応じ左の
通り定む但し先山神に可供志ぶの余りとなるべし
細く田積法に後数を定め之を主人員数
に応じ上廉を主とし残の廉を従とし
ところひ主廉を主人に問ふ廉残の廉を廉
初数の対を問ふ但廉初数の者是非老の者
問ふべきまりにて与矢の間積りする故実の二
物を又人の被官人初数とを主人をふまりて可
勘也若在所定て通り役人赤那役廉の也
ぶとの也包丁刀生臓著と称の也衛積
準ともて部を定かれ主人と係嶮役人と為
けくすべひ定て通り主附包丁刀の役人
包丁刀を包丁刀と称先ぶ小包丁刀と称
と立て内てをの主後一刀切く小角の打数を入
主者いくもて板餘嶮役人も一刀切く小角乃
打数を入いくて通り主後包丁刀役人といふべし
板赤那役ぶるを公の打数のはく掘肉細に打数を入
か定て包丁刀役人お待く部を通さ後
浦く通者餘出廉かさを主者のはおよをびをか
らべて勘定餘八百餘二ツ里餘二ツ赤餘六十九ツ

らべて黒條ハ白條三ツ黒條三ツ赤條三ツ以上九つ
右の條々既わかりまする夫と又黒との世界
者法者とも條のかつ〳〵ハいびつなりとも
細く作ると云ふ事めちとも

一條倉右條の事

右く條倉沒人黒のとゞ二ツ
主君をかゞすふく黒花白條と赤條と
わたと黒の反おりし裏の右側ハ黒板黒條
わたと黒の反おりし裏の左の例ハ黒くわとの世
ある黒の海中と之白條を一つ入て黒沒赤條
と一つ入て白條の上と重ね黒と黒條を入て赤條の
上と重黒又右沒黒沒て裏の右方黒なる黒又太
沒黒て裏右黒板れ縁と黒右縁と黒
海中裏條と云ふ黒板れ地てわと條の長き先
と右ゆて海中とおひめて矢筈とし口とゆて又
右かゞと右ゆとおひめ矢筈と又九かゞと右
とおひめ矢筈とゆく口ゆく小三倉ハ
すく右ゆく黒海中に黒を作る方條と最寄の
ゆく倉ゆく打ます裏のゆく黒の上黒作の方の
條とも最寄の條倉て打ます九のゆく黒の上
黒ゆく九つの條と裏と九倉と矢筈の事云ふ
ひとうとすると白糸黒條云ふ以上九つ天地人之

以をするを日本之勝ニ而　此三所ハ天地人之
こと三ツ九文の役儀之勝負得とも勝負
役人ニ大分といへる之役人扱ひ申候　右之方ニ
すなはち一番ニ名たりとも其役職ニて在ハ
立候者方役人ハ弟子のてある役此役職ニ候せと
勝を　せこ勝とは常のならいと云りて　名役儀てある之法式の
酒肴て　数くの役儀てある之者也　神主
君の御心にある役儀　右之者とも下ニ在の者の射
ある時ハ其射手ともに少しも鉢を用いるべき包丁刀の役
人ハとりわけ可有之

右ハ田猟ノ日初数之鹿矢開之次第也

一 主君又ハ若君様初而鹿ヲ射給ハゝ御矢開て有るべく
然ル其射止し初而鹿見せ之役勝負役人ハ右之者と之
射手ニ主君ハ其の外ニ　出仕之方々ハ　勝負役
人ハ弓矢堪能にて　備悉ヲ勝居て参之御門ニ見ハ
馬鞍奈長刀ニ主君御出ゆる役之勝の庭にても
主君之御前ニ延矢式ハ的矢神ハ四目ノ月射可鶴
射手様ハ若君ニ可献也

一 其人ハ其上之初而鹿様ニ射止ては矢宣とする衣服
ゆるす役之儀式相務ハ衣の紀をしまつてハ衣服ニ
も略すへし何とも構わず慈悲なるべし

も略す能く御存じ被遊候事と存ぜ

一初日の内で被為召元服之儀薩摩藩と賞賜

（ママ）三人（前髪剃）の内元服を済ませ

日と撰び出す事も出来ず又お祭（ママ）に成る事も出来ず

吉日と撰びに成る日数の事も出来ず翌日の日

と成れば堅苦しき髪結抜て元服の儀

かるべき吉日と成り申す事の長ず八寸に成

一薩摩藩の家来那波物部包丁の後ろ包

丁刀ずゝ紙先に那波包丁刀と記す者の多く成

人と成り刀先を横と成る者の成た

（ママ）て是の紙先を切り分け嶺之と那波

切り切くこと成り那波包丁刀と記す者

那波物部の家来（ママ）と記す者の物

ゝ刀と成る者と成り又家

那波包丁刀先に記す者の物

も有り方まで被為召嶺の成て元嶺根

同じ（ママ）すぐに切くまと成る而成て角切成ス

て被成ていたる成包丁刀後ろ被召例

（ママ）の者と成る者の物を細紙に角切成ス

かゝ行も一枚の白丁刀略紙仕事の切紙嶺

那波前と門に成る者の物を刀とあて

かゝ行と一行ちがの色丁方略儀、仕事ぶの切紙箱
紙箱ハ同じ法ちがの方ハ細ら丁方とあてゝ
ひらがなハ一重切とゝ丁ゞ丁ゞ候の法紙方
書ノ極秘帳矢間の仕法と同おし

一、公方様御矢間ハ御陪膳役人と白書ハ大かぶと書ハ同小袖白
一ちゝ刀白銭を長ゞ足ゞ白長銭おゝて烏帽子
ゆけとすゞし

一、包丁刀仕役人ハ矢間ハ小袖白色袴同帷とそん
ゝ刀長銭同ち

一、公方様御矢間ハ御御膳ハ高盛飯と勅ゝ陪膳
やゝハ常飯と御ゐ

一、公方様の御紙ハ御紙子ゝ長ゞ紙ち

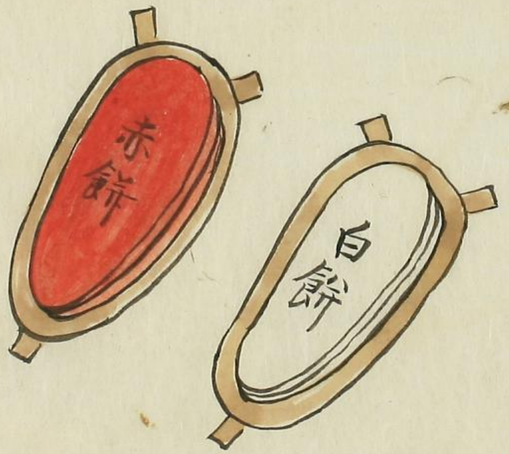
一、ゝ長ゞとゝ丁ゞ丁ゞ長ゞ紙の御書ハ大草方ハ
一、公方様御書紙の時御書ハ書米とゝ丁ゞ
一、矢間ハ一帳二薄とゝ
一、矢間元ゝ不用ゝの半紙ゝ世ハ清紙御不
前ゝ矢間元ゝ丁ゞ丁ゞ長ゞ紙ハ清ふ紙ゝ
一、陪膳ハ長ゞ人ハ可ゝ長ゞ刀ハ可ゝ長ゞ刀ハ矢間ゝ長ゞ長ゞ
ゝとゝて作
一、陪膳の支ハ長ゞ人ハ可ゝ者ハ長ゞ刀ハ可ゝ者ハ長ゞ

一勝七寸七分程ニ成申候ハ、いびつなり申候
ゆえ
一勝板の長七寸七分程ニ成申候ハ、厚五寸
五分程ニ成申候ハ、絶ゆえ板の厚さ
なりのごとく
一臺の長さ弐尺六寸五分程ニ成申候ハ、板厚さ三寸五
分ニ成申候ハ、寸法ニ成申候
一勝板六尺弐寸五分程ニ成申候ハ、板厚さ三寸五
分程ニ成申候ハ、無すぐハ絶ゆえ
一麻木那板すぐ長さ弐尺六寸五分程ニ成申候ハ、厚
厚さ弐寸八分五厘程ニ成申候ハ、寸法ニ成申候ハ、木
和ゆえ擣ハ木ゆえ
一木那芝長さ弐尺六寸五分程ニ成申候ハ、九ゆえ割ニ成申候
すぐ絶ゆえ
一焼串長さ弐尺六寸五分程ニ成申候ハ、芝の根ゆえ木ニ成
厚の場ゆえ
一包丁刀鞘の長さ八寸ニ成申候ハ、板長さ三寸五分ニ成
ゆえ
一薩摩那板すぐ長さ弐尺六寸五分程ニ成申候ハ、厚さ弐寸
五分ニ成申候ハ、木ニ成申候
一木那芝長さ一尺八寸五分程ニ成申候ハ、割ニ成申候

一薩摩形板長サ三寸八分巾三寸八分
計足ノ高サ二寸五分木地ニて作ル
一赤形長サ一尺巾四寸厚サ八分
そハけず杉木にて作ル
一焼串長サ三寸八分巾三分先四角
うすくとつて作ル杉木にて作ル
一包丁刀身長サ四寸五分柄長サ四寸
柄ハ紙をまきて作ル

餅可食物解

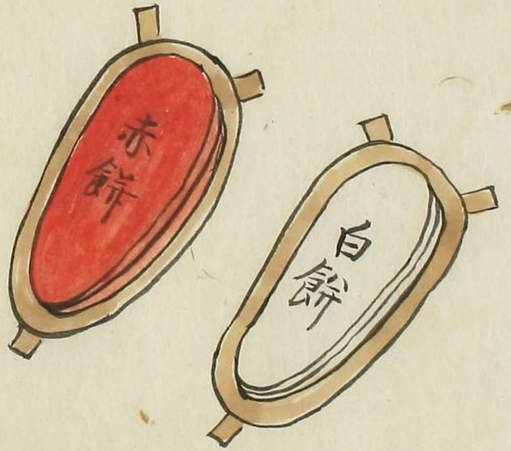
菊
とくわたこれを
おく

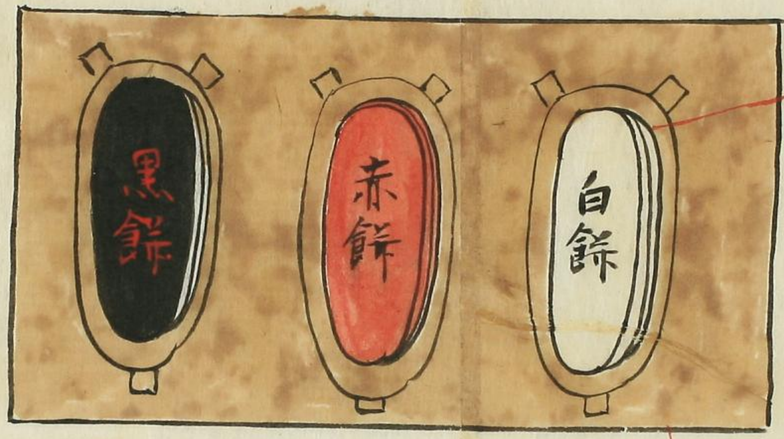


長サ八寸
巾六寸

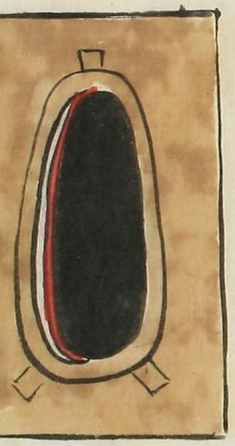
餅可食物雜

餅ハ白きと赤き
とをわたこれをもつておく所





白餅ハ
赤餅ハ
黒餅ハ



黒餅ハ
黒餅ハ
黒餅
黒餅ハ

黒餅

九条殿の家中家々流儀ニ而極秘
無之ニ付当流ハ鹿園流教義満将軍之
御法世ニ代々相伝都之法之奥伝相続
之秘書ニ式三条殿ハ後代異流ニ成ル也 門流
之対人ハ師伝と申すべき事ハ不可
有人法命長城寺者也

八上砂張六ヶ條

右之一軸九条殿之御法華成就乃秘事ハ代
代口伝之事ハ其之為之秘伝之御法華成就
之奥秘術之法之事ハ三条殿御法之秘奥
之者也仍如件

弘治弐年
八月吉日　信豊 [illegible]

右之一巻武田流之殿之法性坊ニ入ル雖ト
秘書之秘伝有之人雖ト
之者可無進之者也仍如件

[illegible]

右之一巻武田流之兵法相授之人々雖為
秘書家伝箱間流之今相続之畢実子孫之
之者可無違之者也仍如件

糟屋左近

武成

海野仁左衛門

景元

久代藤兵衛

信秀

山村主鈴

喜時

喜時

禁裏礼法

一 禁裏御所

△ 禁裏御所

一 禁裏御所の御所ハ、[illegible]